

1 教科及び単元

○ 算数科 「うごくうごくわたしのおもちや」 【全4時間中4時間目】

2 本時の目標

- ①学習のゴールを明確にして、見通しを立てて活動すること。
- ②つまずきやすい部分を知り、解決するために工夫をすること。

3 オンラインによる在宅授業のための本時の主な手立て

二つの目標を達成するために、いくつか手立てを考えた。

まず、授業開始時に Meet を繋いで、完成品と遊び方を披露し、作る上での大切なポイントを伝えた。完成品を見た児童は、画面を食い入るように見ていたので Meet を繋いだ効果は大きく、作品に対する関心をさらに高めることができた。

次に、制作工程が示された画像を用意して、自分の工程に合わせて画像を見られるようにした。画像は、Classroom に掲載しており、事前に予習しておくこともできる。また、作り方を文章で掲載しておくことで、文字と画像の両方から作り方が理解できるように工夫した。しかし、それでも工作の授業では、児童によって取組の進路に差が出てしまう。そこで、早く作った児童は、折り紙で模様を作ったり、色ペンで描いたりするように指示文を追加で掲載した。その結果、ほとんどの児童が、余った時間を有効活用することができ、より工夫を施した作品を作っていた。授業終了の5分前くらいに完成させた様子だったので、活動量としてもちょうどよかった。

再度 Meet を繋いで、作品発表会を学級全員で行った。まずはおもちゃで全員で遊んだ。全員が映る画面を共有したので、他の友だちの様子も見れて学級全体で達成感を味わっている様子だった。次に、数人の児童に工夫したところや難しかったところについて発表してもらった。どの児童も工夫した部分や苦労したところについて、積極的に発言していたので、作品に対する愛着が感じられた。中には、友だちの作品の工夫しているところを説明する児童もいて、自分の作品だけでなく、他の人の作品にも興味をもって取り組むことができた。全員が映っている画面を共有する機能を活用することで、友だちの作品発表を集中して聞くことができた。

4 授業の実際（写真や吹き出し等を使って分かりやすく説明）



5 授業を終えて（感想を簡潔に）

オンライン授業で工作をする場合、Meet による直接指導と Classroom の文章や画像による説明をバランスよく活用することで、児童の集中力が持続することがわかった。とくに低学年の場合は、活動時間をできるだけ確保するためにも、Meet での説明は短時間で済ませた方がよいことを実感した。